

2002年11月20日

竹森健太郎(著)朝日新聞社刊 ビジネスドキュメンタリー書籍

「タカラの山」～老舗玩具メーカー復活の軌跡～ 発刊のお知らせ

企業の“宝”は人である！

株式会社タカラ

このたび、株式会社タカラ(代表取締役社長:佐藤慶太/所在地:東京)の企業復活に向けた、様々な活動の軌跡を書籍にした「タカラの山」～老舗玩具メーカー復活の軌跡～(竹森健太郎著・定価:1,400円・税別)が、2002年11月15日(金)、朝日新聞社から発刊されました。

「タカラの山」は、1999年～2002年の3年間にタカラに起きた様々な出来事(倒産の危機～再建・復活、ヒット商品創出の裏側)など、それぞれ現場での取材に基づいて、インタビュー形式でまとめた全10章からなるビジネスドキュメンタリー本です。

その時社内で何が起こっていたのか、社員一人一人は何を考え、どう行動してきたのか、社員たちが感じた苦悩や葛藤、嬉しかった体験などが、飾らない言葉で綴られている一冊です。

この書籍の発刊にあたり、多くの読者の皆様にタカラを知っていただける機会を得られた事に心から感謝いたします。「タカラの山」の取材にあたり、インタビューを受けた社員、またこの本に触れた社員一人一人が、当時の体験談や会社の流れを、もう一度振り返ることで、改めて「タカラ復活の原点」に立ち帰る事が出来ました。

この数年、弊社には大きな困難や激動期もありましたが、それらを一つずつ乗り越え、その過程で社内に生まれしてきた「新しい企業風土」や「企業精神(タカラスピリット)」を“タカラ復活の大切な財産(宝物)”としてこれからもその原点を忘れることなく、更なるチャレンジをしていきたいと考えます。

1955年葛飾区「宝町」で創業した「タカラ」は、これまでおもちゃメーカーとして数多くの子供達に「夢」を贈り続けてきました。

これからも「おもちゃで培った遊び心」を活かし、子供から大人まで生活を豊かに“心をワクワクさせるような楽しい商品”や“コミュニケーションの提案”で、より多くの人々に「夢」や「遊び心」の宝物を創造できる企業を目指して参ります。

< 筆者あとがきより >

タカラで起きた3年間のドラマはおそらく日本の日本では決して珍しいものではないだろう。会社が危機に陥った時自社を信じて踏みとどまることができるか。企業を悪くするのも人なら、良くするのもまた人。まさに会社の"宝"は人であり、これからは多くの"宝"を手にした企業のみが生き残ることができるのではないだろうか。もちろん、"宝"は企業自らが育て、社内外で発見していくべきなのとは言うまでもない。

今回の取材は法人としての体面上の問題から個人的な話まで、きわめて話しづらい内容もあったはずである。しかし、そのすべてをオープンにするだけの体力と自信が、いまのタカラにはある。その強さが、激動期を経た上でなければ生まれなかったものであり、その裏に苦しみや喜びが隠されていることは、取材中、常に肌身で感じていたことでもある。

< 読者の声 >

- ・ 厳しい状況から立ち直って行く様子は、そうした他の企業にとっても「希望を与えるような一冊」。社員一人一人のやる気、意気込みでこんなにも会社が変われるというのは、サラリーマンにとっても、やる気を起こさせる話だと思います。 (報道関係者)
- ・ こんな世の中だからこそ「頭でっかちな大人になってはダメだ!」と思いました。 (大学4年・男)
- ・ 変化をしてきた歴史、個人の働きかけが響く、変化していける会社であること、そんな素質を持つタカラを面白く思います。 (大学4年・女)
- ・ 社員の迷いや感情がストレートに伝わってくる。 (大学4年・男)
- ・ タカラのなかでは誰もが主役になることができるんだと思いました。 (大学4年・男)
- ・ 数ある企業の中から選ばれて本になることは簡単なことではない。タカラの社員一人一人がそのことを励みにして今後も頑張ってもらいたい。 (マスコミ関係者)

この件に関するお問い合わせは下記までお願い致します。

株式会社タカラ 広報室

〒125-8503 東京都葛飾区青戸4-19-16

TEL: 03-5680-2041 FAX: 03-5680-8627

朝日新聞社 出版本部ホームページ

<http://www3.asahi.com/opendoors/>

タカラの山 <http://se01.asahi.com/fcg/doors/shoseki/shoko.cgi?257797-5>